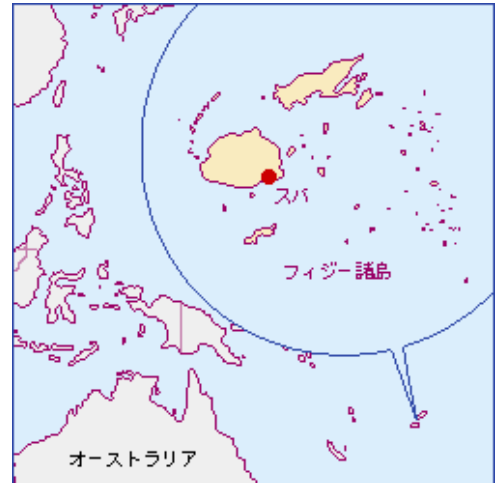


\* この事業は日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により実現致しました。

# フィジー諸島共和国

バ・ミッション・メソジスト病院へ救急車を寄贈



対象地域：バ・ミッション・メソジスト病院

内 容：救急車2台【福島県の自治体より供出】

輸送過程：2007年 3月 横浜港より出港

3月 スパ港入港

4月 車両引渡しセレモニー

## 南太平洋の美しい島国“フィジー”

フィジー諸島共和国は330個もの島々からなる国です。日本から南へ約7,000 Km離れた南太平洋のほぼ中央部に位置し、各月の平均気温は23～28度と年間を通して気候に恵まれています。首都スバは、南太平洋随一の港町であり、世界各国から客船や漁船がやってきます。スバはフィジー最大の市場であり、南国野菜やフルーツ、魚などが豊富にあります。街はとても賑やかで、植民地時代の建築が多く残されているため、無国籍な情緒が漂っています。人口約83万人のこの国には、年間45万人の観光客が訪れ、観光が最大の産業となっています。

## バ・ミッション・メソジスト病院周辺の医療活動の現状

バ・ミッション・メソジスト病院は、フィジー最大の島であるブチレブ島北西部バ町にあり、同町およびその周辺には17万5,000人以上の人々が住んでいます。近隣の病院は、バ・ミッション・メソジスト病院のみ、救急車は1台だけでした。その救急車は製造から20年以上経ち、走行距離が60万Kmを超えており、老朽化の激しい状態で、常時修理に追われていました。適切な救急医療サービスを行うことが難しく、緊急に救急車を更新する必要がありました。

## 救急車活躍の現場の報告

救急車2台を寄贈することが決定し、2007年2月に、要請団体であるバ・ミッション・メソジスト病院の院長コロボウ氏とフィジー大使滑川雅士大使との間で署名式が行われました。署名式の際、コロボウ院長から「救急車が寄贈されることは、たいへん助かります！」との力のこもったスピーチがあり、医療活動が厳しい状況にあることが伝わったそうです。これを受けて日本外交協会では寄贈車両を整備し、フィジーへ発送しました。2007年4月にバ・ミッション・メソジスト病院にて、救急車2台の引渡しセレモニーが行われ、日本大使館からは、折笠弘維代理大使が出席し、セレモニー当日に院内を視察しました。



署名式：コロボウ院長と滑川雅士大使



院長から「たいへん助かる！」と力の入ったスピーチが行われた。



右からコロボウ院長、折笠代理大使



引渡しセレモニー：鍵の贈呈



院内を視察する折笠弘維代理大使

お問合せ：社団法人日本外交協会 海外援助事業担当

tel: 03-3584-6200, fax: 03-3584-7542, e-mail: recycle@spjd.or.jp